

ベトナム現地情報（2021.08.06）

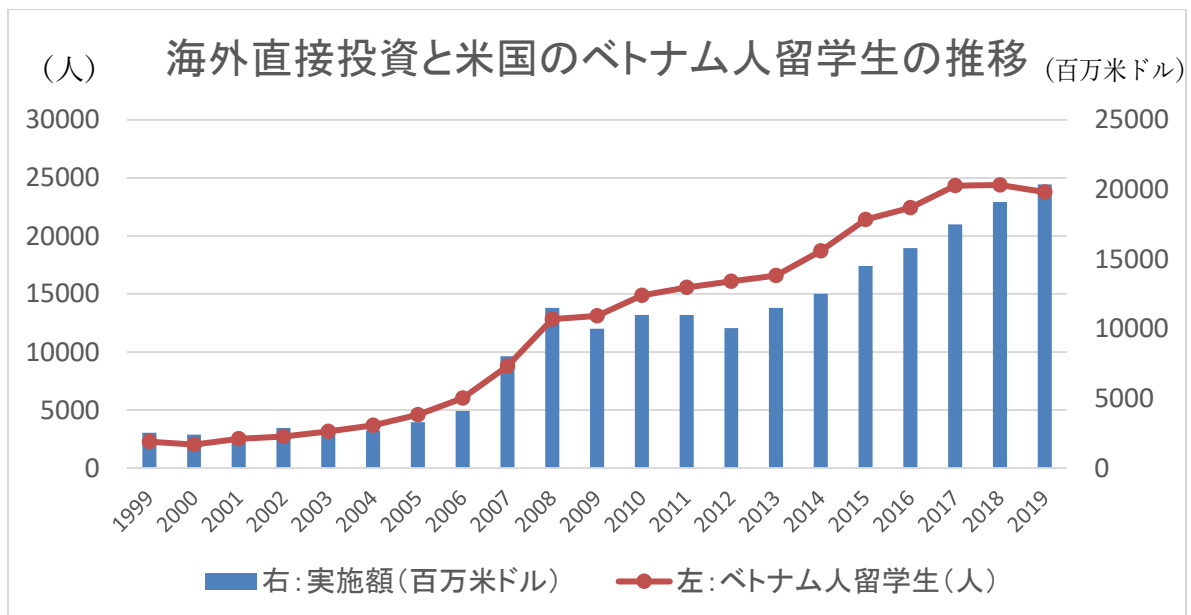
ジャパン証券 北山亨

第12回「ベトナムの英語教育」

近年ベトナムは企業の生産拠点としての役割が高まっている。海外から国内への直接投資の認可件数、実施額は共に増加傾向にあり、世界経済との結びつきは強まっている。

盛り上がる英語教育

海外からの直接投資に加え、近年結ばれてきた複数の自由貿易協定はベトナムのグローバル化を加速させた。そんな中、政府は現在 外国語教育に力を入れている。特に英語教育が盛んだ。2017年に外国語教育の学習計画が改訂され、小学3年生から英語が必修科目となった。実際に本場アメリカの大学に留学する学生数は年々増加しており、2019～20年度は国別で6番目¹に多かった。さらに1999/2000～2019/2020年度までにベトナム人留学生の数は約10.4倍に急増した。



(出所) 国家統計局 GSO、国際教育研究所 IIE

¹ 中国、インド、韓国、サウジアラビア、カナダ、ベトナム、台湾、日本、ブラジル、メキシコの順

また同時期には米国の留学生ランキング上位の中国（6.8倍）、インド（4.5倍）も数を大きく伸ばしている。一方で米国に向かう日本人留学生は1999/2000年度に最盛期を迎え、そこからおよそ20年間で約63%減少した。

語学力の強化を図るベトナムで近年目立つのが、街中の語学学校の増加だ。15歳未満の人口が全体の約24.3%²を占めており、ハノイやホーチミンといった大都市では、親が子供を英語教室に通わせることも多い。英語教室で有名なのが「APAX LEADERS」である。ハノイ、ホーチミン市を中心に全国展開しており、教室の運営元であるアパックスホールディングス（IBC）はホーチミン取引所に上場している。

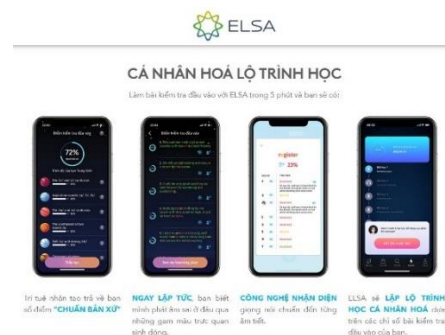
エドテック市場にも追い風

またインターネット普及率が約7割³のベトナムでは、教育現場にITを取り入れるエドテック市場が拡大している。オンライン英語教育サービスを手掛けるエデュカは先月、中国のアリババグループが出資するファンドから200万米ドルの資金調達に成功した。英語発音練習アプリ「ELSA Speak」もベトナム人女性によって創業され、2019年に米グーグル社から700万米ドルの出資を受けている。

所得の増加から子供により質の高い教育を求める家庭が増えている。国を挙げての英語教育はベトナムの国際競争力を高め、今後の成長に寄与するものと思われる。



全国に約130教室を展開する APAX LEADERS（公式ホームページより）



AIを駆使した発音練習に定評がある ELSA Speak（公式ホームページより）

² 国家統計局 GSO（2019 国勢調査）

³ 68.7%（2019 世界銀行調べ）

ディスクレーマー

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。